

第 63 回

地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、黒木利治さんにご紹介いただいたこの方は、「93 歳なのに元気になんでもこなす憧れのスゴイ人」とのこと。インタビュアーは大村信夫でお届けします。

【今回のスゴイ人】
黒木 久夫さん



今回は、財部町のご出身で、なんと93歳の黒木久夫さんにお話を伺ってきました。

18歳の頃から10年近く炭作りに勤しんでいた黒木さん。

「ひとりで木を伐採して、一度に何百から何千キロの炭を作るのは大変だった」と全て自分でこなす日々。ある日、家造りを手伝ってくれないかと、知人に頼まれ大工に転身。

「自分の家の周りは、全部建てたんだよ」と一から作り上げる楽しさを学んだそう。時には、白菜の収穫を頼まれ手伝ったり。地域にとっても欠かせない存在となりました。

93歳になる現在も地域のための活動は終わりません。

「朝ご飯は欠かさないよ」と朝ご飯を食べると、スイッチが入り活動が始まります。

竹の枝を集めては、自分でほうきを作ります。この竹ほうきが人気で近所の方からは「黒木さんの竹ほうきは柔らかくて使

いやすい」と大好評。現在では、財部町の「きたん市場」で販売も行っています。

さらには自ら木に登り、枝打ちもしています。登る高さは20メートルにおよぶこともあり、その高さから、木を切りながら降りてきます。

「昔は見て学んだんだよ」と木の登り方は見よう見まねの独学。切り落としした枝葉は、お風呂の焚き付けに良いと、近所の方々に好評だそう。

この他にも側溝に落ち葉が詰まっていると、甥っ子である黒木利治さんと一緒に掃除もします。

「人が喜べば、それでよかじゃ」と全ては人のため、地域のため。長寿の秘訣は、3食食べて動くこと。「動く方が楽」と毎日のように車の運転をしたり、お風呂の薪用に竹を割って使っています。

「どんな時も人のために」元気に動き、自然と共に毎日を過ごされている黒木さんでした。

実は隣のスゴイ人



▶インタビューを終えて

何でも屋の黒木さん。ご近所との相互扶助の関係は、今の時代に必要なことだと再認識できました。自分も残り少ない任期、出来る限り曾於市に恩返しをしたいと思います。
(大村)



協力隊の今日この頃

またもや大村です。これで任期中最後の取材と活動報告になります。コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で思ったように活動が出来ないことも多々ありましたが、地域の皆さまのおかげで楽しく充実した3年間を過ごすことができました。台湾の方々へのツアーの実施、ゲストハウスやごろうでの外国人観光客の受け入れ支援や国際交流活動。憶神社でのお茶会やSNSを使った英語の情報発信。日本茶のワークショップ。何よりも末吉中学校での英語授業のサポートは、大きく自分の方向性を変えてくれました。本当に純粋で伸び伸びと育つ曾於市内の子ども達。そんな姿を見ていると、微力ながらも子ども達の成長の一端を担えればと教師を目指すことに決めました。そう思えるようになったのは、関わってくださった皆さまのおかげです。この場をお借りしてお礼を申し上げます。またALTのショーン先生には公私共に助けられました。トーマス先生はなかなか来日が出来ませんでしたが、今ではすっかり学校の人気者。他の先生方をはじめ皆さんにお会いできたことが何よりの宝物です。児童生徒の皆さんも、いつまでもお元気で！そしてまたどこかでお会いしましょう！（大村）

